

アンケート調査報告

【実施概要】

■調査時期 令和5年10月3日～10月23日

■調査対象・実施方法 以下のアンケートを実施した。

対象者	配布部数	選定基準・実施手法等	
		対象者	実施方法
市民	1,500部	<市民> 18歳以上の市民を無作為抽出	【実施】郵送 【回収】郵送及びWEB
児童生徒 保護者	2,605部	令和5年度小学5年生 中学2年生の児童生徒の保護者	【実施】各学校の教職員より保護者へ依頼 【回収】WEB

■回収状況

対象者	配布部数	回収部数		回収率
		郵送	WEB	
市民	1,500部	412部	212部	1,098部 26.7%
児童生徒 保護者	2,605部	474部		

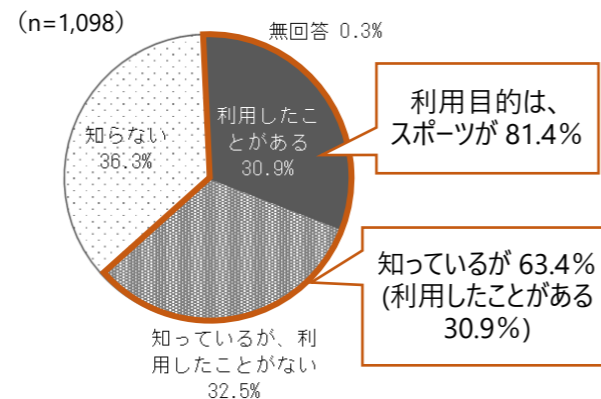
※調査結果は、重複回答の可能性を含む

● 地域に開かれた学校づくりについて

<学校開放の認知度、利用度>

Q 学校開放認知度 (Q2-1 SA) ※グラフ参照

- ・「知っている」が63.4% (30.9+32.5)
- ・「知っているが利用したことがない」が32.5%
- ・施設開放を「知らない」が36.3%



<利用者の目的>

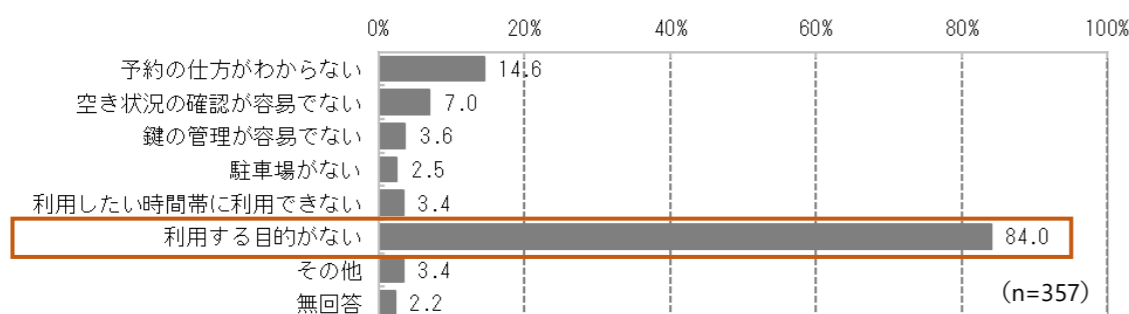
Q 利用したことがある人の目的 (Q2-2 MA)

- ・利用者の目的では、「スポーツ」が81.4%で最も多く、
- ・次いで、「PTA・子ども会」が23.9%
- ・「その他」では、子どもたちの遊び場や学童のお楽しみイベントなどがあげられている。

<学校施設を利用しない理由>

Q 知っているが、利用したことがない理由 (Q2-3 MA) ※グラフ参照

- ・「利用する目的がない」が、84.0%で
- ・「予約の仕方がわからない」が、14.6%、「空き状況の確認が容易でない」7.0%。

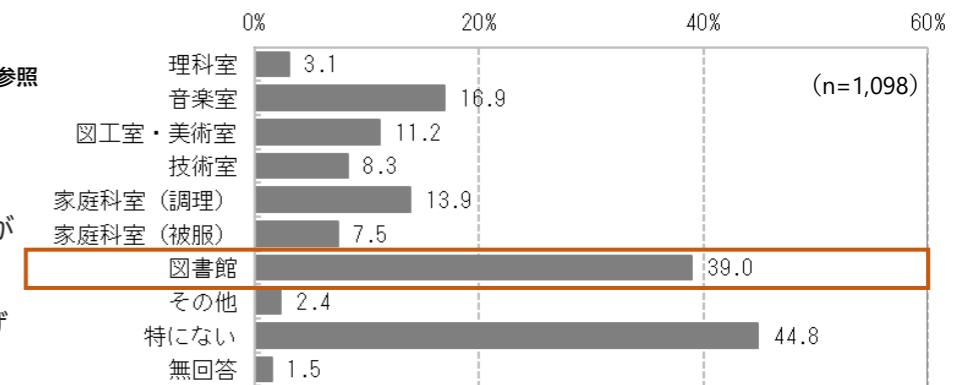


● これからの新たな学校施設の地域開放について

<利用したい特別教室・平日・休日・時間帯>

Q 学校開放で利用したい特別教室 (Q3-1 MA) ※グラフ参照

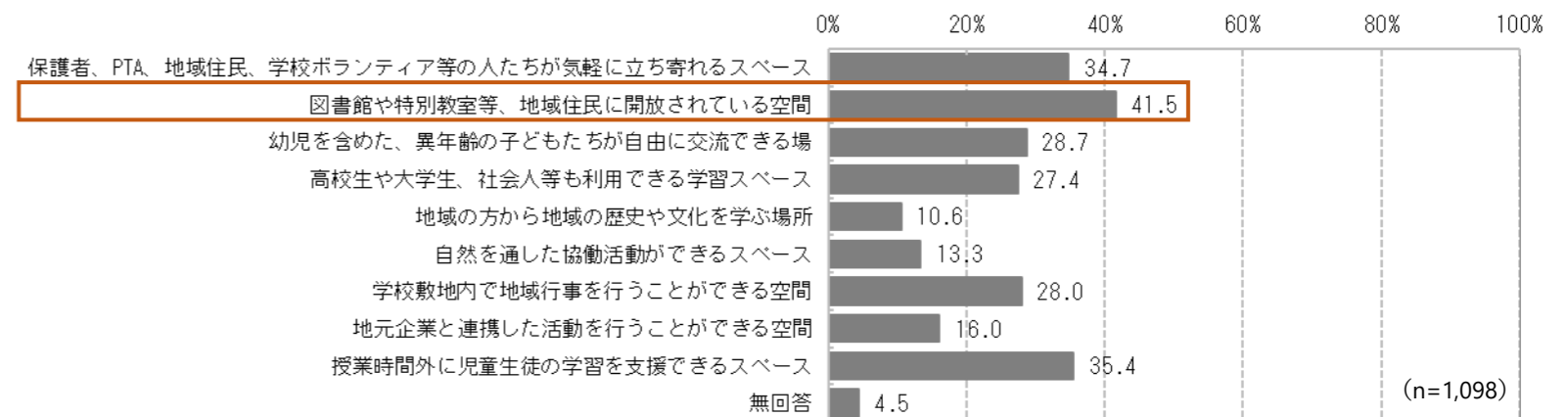
- ・学校開放で利用したい特別教室に関しては、「図書館」が39.0%で最も多く、
- ・次いで「音楽室」が16.9%、「家庭科室（調理）」が13.9%であった。
- ・「その他」では、「グラウンド」や「体育館」があげられている。
- ・平日・休日では「休日」が52.3%で半数以上。「平日放課後」が16.5%、「平日夜間」が15.6%



<地域とのつながりに必要な空間>

Q 地域と密接につながるために必要な空間 (Q4 MA) ※グラフ参照

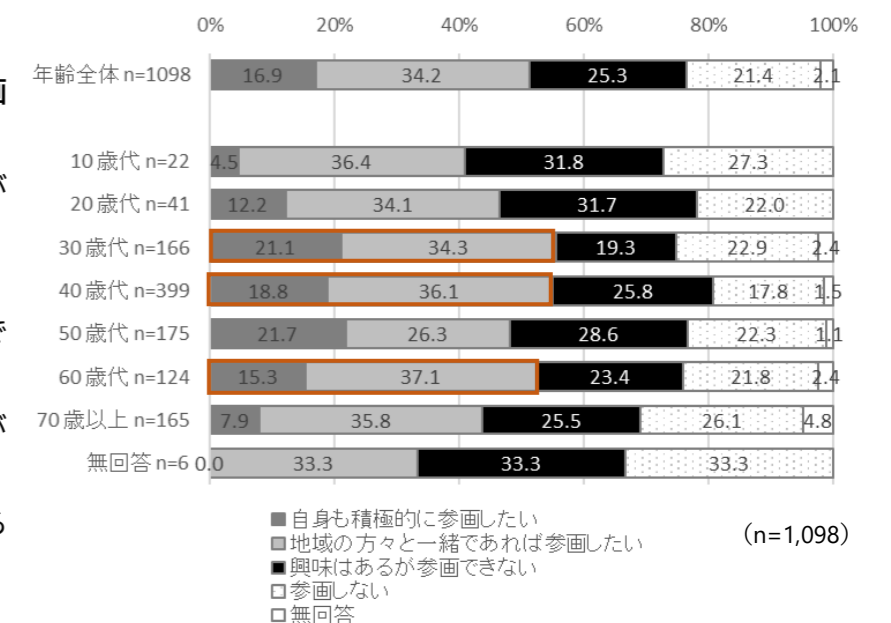
- ・「図書館や特別教室等、地域住民に開放されている空間」が41.5%で最も多く、
- ・次いで「授業時間外に児童生徒の学習を支援できるスペース」が35.4%、
- ・「保護者、PTA、地域住民、学校ボランティア等の人たちが気軽に立ち寄れるスペース」が34.7%



<交流や協働活動への参画意向>

Q 学校敷地内で交流や協働活動を実施した場合の参画 (Q5 SA) ※グラフ参照

- ・全体では、「地域の方々と一緒にあれば参画したい」が34.2%で最も多く、
- ・次いで「興味はあるが参画できない」が25.3%
- ・年齢別でみると、50歳代が21.7%、30歳代が21.2%で「積極的に参画したい」割合が高く
- ・「地域の方々と一緒にあれば参画したい」では、60歳が37.1%、40歳代が36.1%で高くなっている。
- ・30歳代、40歳代、60歳代の過半数で参画意向がある結果となっている。



<実施するとよいと思う交流や協働活動（自由記述回答）>

主な意見として以下の内容があげられた。

内容	件数
地域交流	69
農業体験、職業体験	62
学習支援	56
スポーツ体験	51
地域の伝統行事	24
防災活動（訓練）	22
文化・芸術活動	20
絵本の読み聞かせ	19
ボランティア活動	12
他学年交流	10
ビオトープの設置	8
食で地域交流（子ども食堂など）	6

その他で以下のような内容もあげられている。

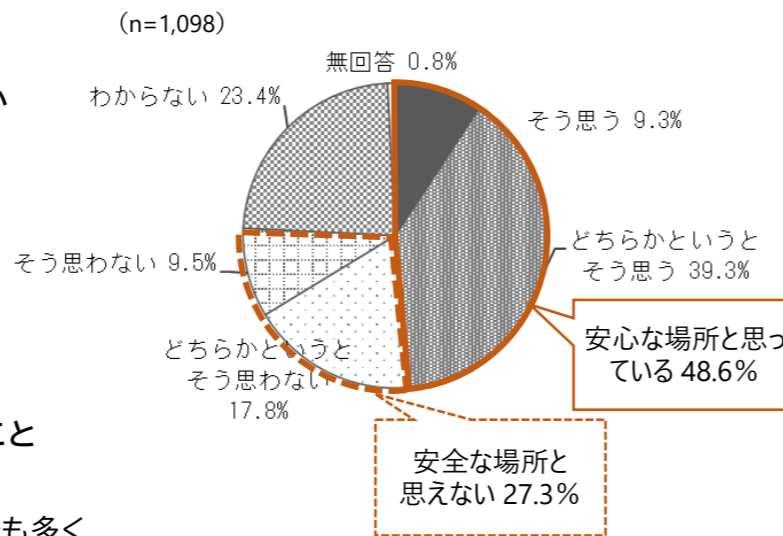
- ・国際交流
- ・フリーマーケット
- ・高齢者のリハビリ
- ・企業のキャリア教育
- ・DIY教室 など

● 地域に開かれた安全・安心な学校施設について

<学校施設の安全・安心>

Q. 近隣の中学校は、防犯の視点で安心な場所か (Q7-1 SA) ※グラフ参照

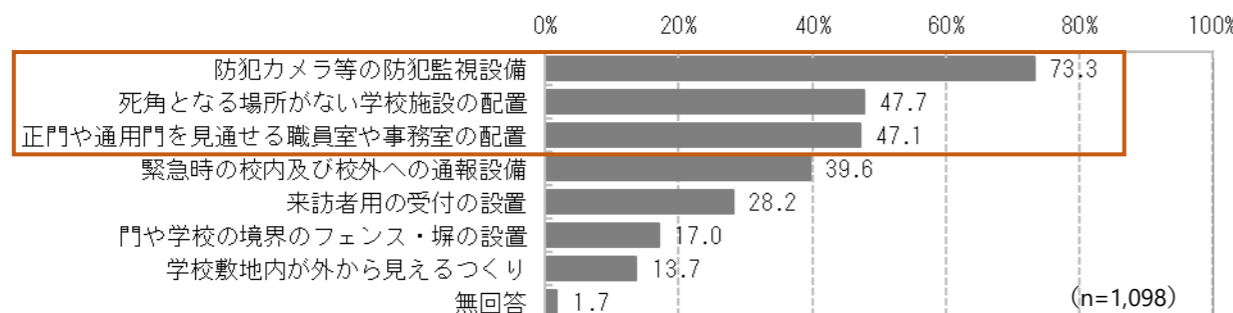
- ・「安心な場所と思っている」が48.6%
- ・一方で、「安全な場所と思えない」は、27.3%
- ・「わからない」が23.4%。



<安全・安心な学校施設に必要なこと>

Q. 安全・安心な学校施設にとって特に重要なこと (Q7-2 MA) ※グラフ参照

- ・「防犯カメラ等の防犯監視設備」が73.3%で最も多く
- ・次いで「死角となる場所がない学校施設の配置」が47.7%、「正門や通用門を見通せる職員室や事務室の配置」が47.1%

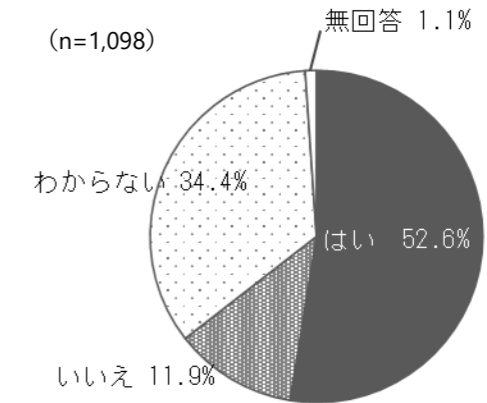


● 地域の防災拠点としてのあり方について

<避難場所に関して>

Q. 災害発生時、近隣小中学校への避難 (Q8-1 SA) ※グラフ参照

- ・「はい」が、52.6%で、「いいえ」が11.9%、
- ・「わからない」が34.4%



<避難所として利用しない、わからない理由>  
主な理由として、以下理由があげられている

<距離的な問題>

- ・家から遠い
- ・足が不自由で自由に歩けない
- ・公民館を利用する

<安全・安心>

- ・自宅の方が安心・安全と思うから
- ・校舎が古くて逆に危険を感じる

<避難所の環境>

- ・人が多く居場所がないから
- ・ペットを飼っているから
- ・障害者がいるので、大勢の中で避難生活ができない など

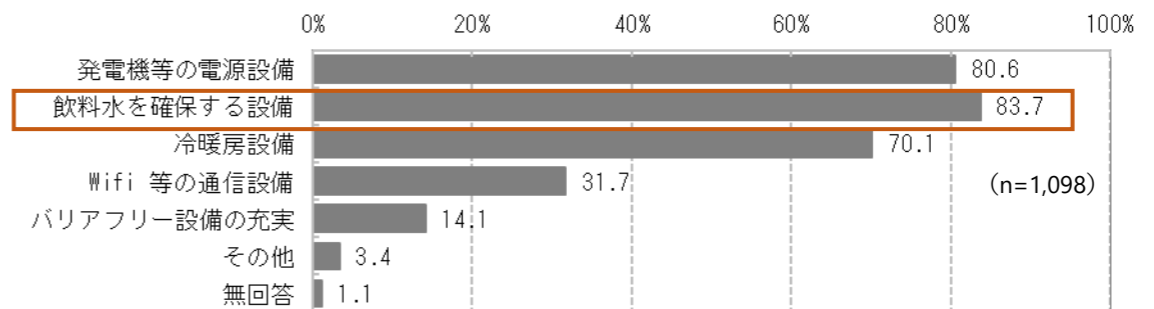
<その他>

- ・災害の状況によって判断する

<防災拠点として重要な設備>

Q. 防災拠点として、特に重要だと思う設備 (Q8-2 MA) ※グラフ参照

- ・「飲料水を確保する設備」が83.7%で最も多く、
- ・次いで「発電機等の電源設備」が80.6%、「冷暖房設備」が70.1%



その他の意見として以下の内容があげられている

- ・プライバシーが守られる空間(15)
- ・トイレ(3)
- ・簡易ベッド、間仕切り(3)
- ・個室の確保(2)
- ・シャワー室 など